

令和4年度 北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜後期募集）

専門科目「学校臨床心理学」（1／3）

学校臨床心理専攻 学校臨床心理専修

以下の注意事項をよく読み、次頁からの問題に解答しなさい。

注意事項

- ① この試験問題の構成と配点は以下の通りである。

問題1から4：〔2頁から3頁〕

4つの問題の中から2つの問題を選んで解答すること。

配点は、1問あたり100点。2問で200点。

- ② 解答用紙の（ ）のなかに、選択した問題の番号を記入すること。
答案が解答用紙に書ききれなくなった場合は、当該の解答用紙の裏面に続けて書くこと。

令和4年度 北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜後期募集）
専門科目「学校臨床心理学」（2／3）

以下の問題1から4の中から、2つの問題を選択し、解答用紙に解答しなさい。

（各100点，計200点）

<注意> 解答用紙の（ ）のなかに、選択した問題の番号を忘れずに記入すること。

問題1. 心理療法において、セラピストがクライアントに対して自己開示を行うことによって生じる影響について、論じなさい。

問題2. 小学校高学年の教科担任制の導入に関する現状と課題について、子どもたちの発達の視点と教員の専門性の視点を踏まえて論じなさい。

問題3. アンダーアチーバーについて説明し、アンダーアチーバーが生じる子ども側の要因と環境側の要因をそれぞれあげながら、アンダーアチーバーに対する支援の具体例を論じなさい。

令和4年度 北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜後期募集）
専門科目「学校臨床心理学」（3／3）

問題4. 次の文章は、医療機関が学校教師に吃音症について説明する資料の一部である。
これを読んで、小学校で吃音症の特徴をもつ子どもが学級に在籍している場合、担任教師
はどのような配慮をしたらよいかを論じなさい。

（この部分は、著作権の問題により公開できません。）

出典：菊池良和（2018）吃音症の基本を理解する 発達障害医学の進歩 No.30 pp.26-36

